

## 入選

### あたたかな春の陽ざしのように

香川県 仏生山小学校 6年 坂賀 憩

「上手に書けましたね。この作品は置いておきましょう。」

寒い秋の日のことでした。私は、通っている書道教室で書き初めコンクールの練習をしていました。私の背丈くらいある、大きな半切という紙に太筆で書くのは、とても難しく、何日かけてもなかなか思うような作品が書けずにいました。

その日、がんばって書いた作品のうち一枚が、先生から合格をいただいて、私はうれしい気持ちで、電車で飛び乗って帰ってきました。駅に置いてあった自転車のかごに荷物を入れて自転車を出したとたん、バランスをくずして、自転車ごと倒れてしまいました。みるみるうちに、テレビで見たドミノ倒しのように、バタバタと自転車が倒れていきます。

(えっ。どうしよう。) 私の自転車は子ども用で小さく、自分でも起こせませんが、倒れた自転車は大きな大人用ばかり。しかも、ハンドルやペダルがからまっていて、とても私一人で元に戻すのは難しそうです。ぼう然としたまま、倒れた自転車を右、左にと見たあと、自分の自転車に目をやると、かごの中に大事な清書作品がちらりと見えました。先生に「いいですね」と言っていた作品に、くしゃと折り目やしわが入っています。

(やっとなんときれいに書けたのに。もう同じように書けないよ。)

倒れた自転車の列と、だめになった作品。悲しみと絶望で頭が真っ白になり、涙がこみ上げてきました。

すると、そこへ通りかかったおばさんが、

「どうしたの、大丈夫？ いっしょに起こそう。」

とやさしく声をかけてくれました。おかげで、私も元気が出てきて、それからは必死で自転車を一台一台起こしていきました。そして、おばさんは、最後の一台が元通りになるまでいっしょに直してくださいました。北風が吹き、寒かったけれど、私の心は、小春日和のようにぽかぽか温かくなりました。

おばさんの自転車のかごにも買い物の荷物がたくさん入っていました。

(お昼ご飯の用意を急いでいたのでは。それなのに、私のために足を止めて時間もかけてくださったんだ。) 感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その日私が書いていた作品は、「東雲春光」の言葉。おばさんの新年が明るい光のさすよい年になりますようにと願いを込めて、絶対に今より良い作品を書こうと心に決めました。

それと、もう一つ心に決めたことがあります。誰かが困って助けてほしいと思っているときに、相手の気持ちに気づいて、どうしたら相手のためになるのか考え、行動できる人になることです。今までの私は、思うことはできても、勇気を出して行動に移すことはできていなかったと反省しました。

おばさんの親切な言葉、笑顔、行動のすべてに私は救われました。私も相手の立場に立った小さな親切で、春の陽ざしのようなあたたかい心をプレゼントでき、助け合える人になりたいです。